

外国語教育メディア学会（L E T）関西支部中学高校授業研究部会・
京都教育大学英語の教え方研究会 主催

2019年度 10月例会のご案内

日 時： 2019年 10月 13日（日）13：30～17：00

会 場： 京都教育大学 CALL教室（1号館B棟4階）
（アクセスは<http://www.kyokyo-u.ac.jp/>から）

参加費： L E T会員・・・・・・・・・・・・・・・・・・無 料
京都外国語大学より良い英語教育を考える会会員・・・・300円
学生・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・200円
一般・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・500円

問い合わせ先： 西本有逸（京都教育大学） yuitsu@kyokyo-u.ac.jp
鈴木寿一（桃山学院教育大学） juichisuzuki0011@gmail.com

13：10～ 受付
13：30 開会（途中、休憩あり）

理論と実践の往還？理論は具体的ですけど

京都教育大学 西本有逸

「実践なき理論は空しい。理論なき実践は発展しない。」とよく言われますが、実践-理論という二項対立はおかしいです。理論とは具体性に満ちています（マルクス）。ある理論があるとする、即座にどのような教育実践が可能であるかを考えることこそが教員の醍醐味ではないでしょうか。

この前座では、第二言語習得理論の「インプット→インテイク→中間言語の発達→アウトプット」というモデルを取り上げ、教室内でのさまざまな実践・課題・理論の問題点等を考えてみたいと思います。

休憩

授業改善のための理論と応用：高校・高専の英語授業実践から

神戸市立工業高等専門学校 南 侑樹

大学院時代を入れて6年間高等学校で教鞭を取った後、今年度高等専門学校に移籍しました。大学院までは第二言語習得を専門としていましたが、それに加えて、現場に立ち学校におけるQOLを考える中で、教師の成長に興味を持つようになりました。また、良いとされている指導法を取り入れても全然うまくいかなかったこと、さらには、授業後の事後検討会の際「そういうことじゃないんだよな」と感じたことで、私は授業研究を「研究」するようになっていました。

本発表では、高等学校と高等専門学校で行なってきた（いる）授業を紹介しながら、自身の成功談・失敗談や不安・葛藤といった「プロセス」も敢えて開示したいと思います。授業改善は決して綺麗なプロセスをたどらないはず。しかし「プロダクト」に至るまでのプロセスが公開されることはほとんどないのではないでしょうか。その中で、授業改善を促すツール(e.g.リアクションペーパー、ティーチングジャーナル、焦点化シート)を用い、行なった実践研究も紹介したいと考えています。授業改善は気楽に始められるもので、

それを継続し蓄積することで見えてくるものが必ずあります。ご参加される先生方・学生の皆さんとその授業改善の方法についても一緒に考えていきたいと思ひます。

17:00 閉会

今後の予定（諸般の事情で変更される場合があります）

12月8日（日）例会（京都教育大学）

3月20日（金）・21日（土）第26回中学高校教員のための英語教育セミナー

（キャンパスプラザ京都）